

<p><b>事業名</b></p>	<p>北の大学コンソーシアムの連携強化による大学生の生涯スポーツ習慣賦活化</p>
<p><b>事業概要</b></p>	<p>① 大学生の生涯スポーツ習慣の賦活化と指導者資格の取得奨励 公立大学法人旭川市立大学およびAWBC構成校の学生に、科目の履修および課外活動等を通して、生涯スポーツ・身体活動についての知識と実践能力を習得させる機会を提供するとともに、スポーツ関連の指導者資格の取得を奨励する。</p> <p>② 地域スポーツイベントの実施 地域住民に対して生涯スポーツ、ユニバーサルスポーツ体験のイベントを企画・実施し、学生に指導体験を積ませる。</p>

■ 対象地域の課題

北海道地域住民の健康診断の有所見率は全国の平均を上回り、特に脂質代謝異常の項目の異常率が高い。その原因は冬季の積雪寒冷の地域特性による運動不足とされている。北海道の住民は全国に比べて、運動習慣のある人の割合が低く、若年層から肥満者の率が高い。また、北海道民の生活習慣病による死亡者数は、2020年に過去最高を記録し、日本全国の平均値の2.32倍である。

こうした北海道の若年層の健康状況を見る限り、将来より多くの生活習慣病の患者発生と医療費負担の増加が危惧され、地域の持続的発展性確保のために早期の対策が必要と考える。

■ 活用する大学スポーツ資源

【科目】 スポーツ関連科目の履修により、初級パラスポーツ指導員の資格が取得でき、本事業の核かつモデルとなる。【教員】 体育、生涯教育、発達心理、看護、スポーツ栄養、社会福祉等のスポーツ関連の教員が在職する。【イベント】 遊びを通して子供達の心のバリアフリーを培う地域イベントに教員、学生がかかわり、ユニバーサル(UD)スポーツの体験機会を提供している。【サークル】 野球、バレーボール、サッカー、柔道、スキーの各部が全国大会等で活躍している。【施設】 二つの体育館、北海道最大級の屋内練習場で形状記憶型の人工芝や投球練習場を完備するトレーニングセンター等の施設が整う。【連携】 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム(AWBC)のスポーツ医科学研究WG、旭川パラスポーツ協議会やカムイ大雪バリアフリー研究所が、地域においてスポーツの様々な実績を持っている。

■ 期待される事業効果

学生が在学中に、生涯スポーツ・身体活動の知識と実践能力を習得するとともに、スポーツ関連の指導者資格を取得し、地域住民に生涯スポーツ・身体活動を広める役割を担って輩出される。

波及効果として、旭川地域全体の住民の健康度の向上と、健康に裏付けられる幸福、さらに地域の活性化・持続的発展が期待される。

■ 事業の実施体制図 (学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと)

